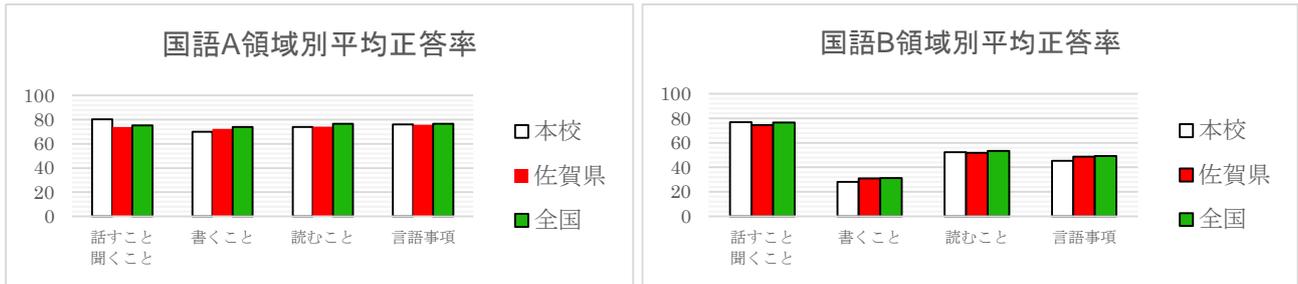


■ 調査結果及び考察

1 国語

(1) 結果

全国正答率との比較



各領域での平均は、A 問題は県平均とほぼ同じで、B 問題においては県平均を上回っているが全国平均をわずかに下回った。全体的に無回答率が低く、記述式の問題でもしっかり回答している生徒が多い。その一方で特定の言葉や知識についての定着不足が目立った。

(2) 成果と課題

話す・聞く

・話の論理的な構成や展開などに注意して聞き、適切な言葉を選択する設問で全国平均を2ポイント程度上回っている。また話し合いの話題や方向を捉えて的確に話す設問では16ポイントを超えて上回っており話し合い活動を取り入れた授業展開の工夫の積み重ねの効果が現れている。今後は、目的に応じたより質の高い話し合い活動の経験をさらに積み、目的や相手に応じて、効果的に伝える技能の伸長を図っていく。

書く

・全体的に無回答率が非常に低く、記述式の問題にも粘り強く答えている。表現やワークシートなどにより、「書く」活動を授業に取り入れ、継続して取り組んできた成果が現れている。その反面目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く設問は全国平均を2ポイント以上下回っており、一定の条件の下で条件に見合った文章を書くことを苦手とする生徒が一定数見られる。様々な「書く」活動に今後も継続的に取り組ませ、苦手意識を払拭させると共に、相手や条件に応じて書き分ける学習を積み重ねて、書くスキルを磨いていく必要がある。

読む

・正答率は全国平均からやや下回るが、文種によらず独りよがりな読解に終始し、題意や内容理解が不十分な生徒が散見される。丁寧で粘り強い読みに授業で取り組ませ、文種に応じて根拠のある読みを持たせる取り組みを継続していく。様々な種類の文章を読む機会を増やし、目的に応じて読み取るための知識と技能を身につけ磨いていく必要がある。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

・正答率は全国平均をやや下回っている。知識の定着のための繰り返す学習が不足している生徒が見られるので今後も、漢字の小テストや、帯時間を活用した語彙の拡充と、適切に使う指導を継続し、知識の定着を図る必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 板書を書き写すだけではなく、ノートにはメモや感想、振り返りを記述させています。また、興味関心を持てる課題や場を設定し、主体的に取り組ませる工夫をしています。
- 授業の中に、意見を交流する場を数多く設定し、自分の意見の変化や深化を認識させることにより話し合いに価値を感じさせ、主体的に取り組む姿勢を育みます。相手の話の主旨を正確に捉え、相手意識をもって表現できる力を身につける取り組みを行っています。
- 朝の時間に設定している「表現タイム」では、書くために必要な知識や技能を身につけ、一定の分量の文章を条件に応じて書く取り組みを継続的に行っています。また、読み聞かせや朝読書の時間を活用して、読書を楽しむことのできる環境の整備と読書力の育成を図ります。

【ご家庭では】

- 言葉を正しく使い、相手に伝わるように表現する力を伸ばすために、日頃からお子さんとの会話を楽しみましょう。共感したり、根拠を尋ねたり、お互いの考えを交流してみてください。また、自分の思いを日記などで文章化することも効果的です。
- 読書のジャンルが広がるようアドバイスしてください。様々な種類の本を読み、いろいろな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。また、親子で公共図書館等を利用することで、お子さんの興味関心は広がり、資料活用能力も高まります。